

新年 あけまして おめでとう ございます



撮影者：北原 久司さん（岡谷市）

目 次	● 年頭所感 2	● お知らせ 7
	● 糖尿病治療の地域連携を考える 3	冬の感染症について
	● ねっとわーく 横田医院 4	● 話題の広場 7
	「かかりつけ医」について 5	外来の椅子を整備しました
	● ゆうゆうで大規模消防演習 を行いました 4~5	● 情報カプセル 8
	PMDA(医薬品医療機器総合機構)って知っていますか?	● 職場紹介 8
	● 認定看護師の紹介 その2 6	薬剤科その①(注射管理室)

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、患者さんの立場に立った医療を実践します
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と、職員が誇りややりがいの持てる職場づくりを行います
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

年頭所感

新年明けましておめでとうございます。2014年を迎えるにあたり謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年、2020年夏季オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決まりました。また、当地ではリニア中央新幹線のルートと駅位置が決まりました。いずれも具体的に決まるまでは本当に実現するのか半信半疑でしたがこれでスッキリした気分になりました。おそらく、今年からオリンピック・パラリンピック開催やリニア時代を想定した様々な活動が本格化してくるものと予想されます。

さて、年頭所感として、今年予定されている主な病院関連事項について述べさせていただきます。それは、①第3次整備事業、②診療報酬改定と消費税率の引き上げ、③日本病院機能評価機構の訪問審査の受審 ④それ以外の項目です。

①第3次整備事業は飯田下伊那医療圏での基幹病院として必要な施設整備を行うもので、既に昨年4月には南棟が完成し、ここに新しい救命救急センターを構成する救急外来、救急病床、救急ICUの各部門が集約されました。当院は輪番制の2次救急及び3次救急を担っていますがほぼ順調に稼働できています。

周産期センターは1月下旬には新しく出来た北棟と本館の2階に移転・稼働します。分娩室や陣痛室を増やし個室化するほか、病棟・分娩部・NICU（新生児特定集中治療室）などと一体的に整備するとともに、これら入院部門の直下に産婦人科外来や助産師外来を配置して周産期センターとしての機能を向上させます。また、この配置により、分娩中に緊急手術になる場合にも、2階の手術室には水平移動のみで今まで以上に素早く対応できるようになります。今回の整備にあわせて、NICUの小児のモニターや分娩時の母子のモニター装置を最新のものに更新し、医療安全を高めていきたいと考えています。

そして、3月にはがん診療施設が完成し、第3次整備事業が完了します。

外来化学療法室は現在の5床から20床に大幅に増床しますが、当初は10床での運用となります。緩和ケア内科外来、がんサロン「結」、がん相談支援センター等、がん拠点病院にふさわしい施設が整備されることになっております。昨年2月に地域がん診療連携拠点病院配備検討委員会の現地調査が行われましたが懸案の施設面での要件はほぼ満たされたと考えています。

第3次整備事業が完了してもまだまだ医師、看護師を含めたスタッフの問題など課題は山積みですので、引き続き体制の充実に努力していきたいと考えています。

②診療報酬の改定と消費税率の引き上げの影響：病院経



飯田市立病院 院長
金子源吾

営はスタッフの努力もあり、ここ数年は順調でした。過去2回の診療報酬の改定が急性期病院に対して追い風になっていた部分もあります。しかし、この4月の診療報酬改定は全体で+0.1%引き上げとのことですが、消費税率引き上げによる影響額1.36%の加算を含んでいますので、実質的には1.26%のマイナス改定ともいえます。詳細はこれからとなりますが、病院として適切に対応し、健全経営を維持していく必要があります。

また、今回の改定だけでなく、今後とも国全体の医療費が増大する中で、社会保障と税の一体改革により様々な制度改正があると思います。当院は、地域の皆さんの期待に応えられるよう、病院の機能充実やサービス向上に努めることを基本としつつも、組織として変化に対応していきたいと思っています。

③日本病院機能評価機構の訪問審査が11月に予定されています。過去5年ごとに3回受審していますが、今回は4回目で新しいバージョンでの受審となります。特に臨床指標、クリティカル・パスや地域連携パスの作成・導入実績など一朝一夕ではクリアできない項目も少なくありませんので今のうちからしっかりと準備を進めるとともに、審査を契機に業務の見直しを行っていききたいと思っています。

④その他、毎年の課題として、医療安全の推進、不在あるいは不足している専門科の医師の招へい、そして臨床研修医の確保などがあります。

幸い、4月からの初期研修医につきましては、定員1名増の6名がフルマッチしました。毎年毎年が勝負の年になりますので、常に医学生や研修医の指導を怠らず、今後も定員6名のフルマッチを続けたいと考えています。関係する皆様方には引き続きご理解とご協力のほどよろしく願いいたします。

最近ではチーム医療が重要視されており、医療の現場では医師だけでなく多職種のスタッフが患者さんに関り、それぞれの専門分野から治療や生活の質改善に関与しています。そのうえで患者さんや地域の皆さんの信頼を得ることが最も大切と考えています。今年も地域の皆さんの声に耳を傾け、基幹病院として地域医療の発展に努めていきたいと思っています。

2014年が皆様にとりまして、希望に満ちた良い年でありますように心から祈念しています。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

糖尿病治療の地域連携を考える

—第4回—

地域ぐるみの糖尿病対策

—地域糖尿病療養指導士(LCDE)の広がり—



実際の食物を用いた実践講義



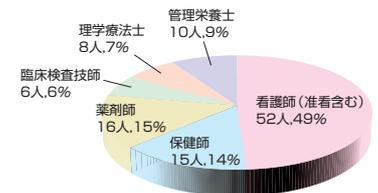
療養指導の実際を学ぶオリジナル企画「糖尿病劇場」

●認定試験を合格した地域糖尿病療養指導士の内訳

飯田下伊那地域糖尿病療養指導士育成会（以下、育成会という）では、平成22年度発足以来、3回の認定試験を実施しました。これまでに107名が認定試験に合格し、地域糖尿病療養指導士として飯田下伊那の各施設で糖尿病に関する療養指導を行っています。

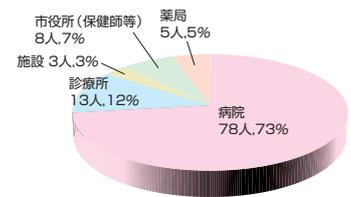
◆飯田下伊那地域糖尿病療養指導士認定者職種別一覧表 (人)

年度	看護師	保健師	薬剤師	臨床検査技師	理学療法士	管理栄養士	計
22年度	15	11	9	3	4	3	45
23年度	22	2	4	2	0	3	33
24年度	15	2	3	1	4	4	29
計	52	15	16	6	8	10	107



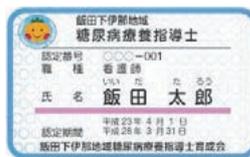
◆飯田下伊那地域糖尿病療養指導士施設別一覧表 (人)

年度	病院	診療所	施設	市役所(保健師)	薬局	計
22年度	29	4	2	6	4	45
23年度	23	7	1	2	0	33
24年度	26	2	0	0	1	29
計	78	13	3	8	5	107



●地域糖尿病療養指導士にお気軽にご相談ください

飯田下伊那の各施設では、地域糖尿病療養指導士が、糖尿病患者さんへの積極的な療養指導を行っています。地域糖尿病療養指導士は、認定証と認定バッジを付けて、来院者等に直ぐに分かるようにしています。糖尿病に関する心配事や、生活上のご相談がございましたら、お気軽にバッジを付けた地域糖尿病療養指導士にお尋ねください。



認定証



認定バッジ



認定バッジを付けた地域糖尿病療養指導士

●育成会活動の課題と展望

育成会では、認定試験に合格した地域糖尿病療養指導士が互いに協力し、糖尿病患者さんへの療養指導について切れ目のない連携を図る必要があると考えています。地域全体が「一つの施設」という考え方にに基づき、どこの施設にかかっても継続的で同じ水準の療養指導が受けられる体制作りが必要です。そのためには、各糖尿病療養指導士の知識と技術の向上に加え、地域内のネットワーク構築が不可欠となります。こうしたことから、育成会では認定試験合格者へのフォローアップとして、年1回の「スキルアップ研修会」を開催しています。専門医、認定看護師、薬剤師、管理栄養士、保健師、理学療法士等による最新情報に基づいた講義とグループワークがこれまでの主な内容となっています。地域糖尿病療養指導士に認定された場合は、この研修を有資格期間（5年間）中に規定回数受講しないと、認定資格の更新が出来ない仕組みをとっています。



また、スキルアップ研修会のグループワーク発表の場で、「地域全体として、まとまった何らかの取り組みをしてみてもどうか」との意見が出ており、今後は、実践活動の機会を拡大すべく、様々な企画を立案、実行していきたいと考えています。医師だけでは補完できない療養指導は、こうした地域糖尿病療養指導士がそれぞれの専門知識を生かしながら協力し、地域内のネットワークで切れ目なく患者さんと関わっていくというのが理想的な形です。地域の患者さんに信頼される地域糖尿病療養指導士を目指して、これからも日々努力と研鑽を積み重ねていきたいと思っております。



横田 医院

(飯田市大瀬木)



地域に根ざした町医者を目指して

横田医院 院長 横田敏範

私は愛知医科大学を卒業後名古屋大学の研修医会に入会し、関連病院である総合病院静岡厚生病院で全科ローテイト研修後、内科に固定し、主に消化器を中心に診療してきました。

途中、東京の国立がんセンター中央病院内視鏡部で研修をし、その後飯田病院で2年半お世話になりました。

平成15年に生まれ故郷である伊賀良の大瀬木の地に横田医院を開業し、今年10年を迎えることができました。私の母校である地域の小中学校の学校医として、子供たちの成長を見守ることができるのも心楽しく感じています。

当院は内科一般、上部消化管内視鏡、腹部超音波検査、胸部レントゲン、心電図、血液検査等の検査があります。とくに、胃カメラでは経

口、経鼻の検査が可能で、苦痛なくできるように心をかけています。

投薬は西洋医学、漢方薬処方を組み合わせて身体のバランスをとりながら治療を行っています。薬はほぼ院内処方です。また、高齢者の方の在宅医療では往診管理等、家族の希望に添いながら自宅での療養、そして最期の看取りまでしています。

必要時、緊急時のタイムリーな専門病院への紹介、精密検査紹介等、患者さんの希望にも添えるように心がけています。

日頃は、入院治療が必要な症例や困った時は、即対応して下さる市立病院の先生方には心より感謝をしています。

スタッフの受付事務と看護師は10年間同じメンバーで、私と患者さんの間に入り、アットホームな雰囲気の中、行間を埋める

ような親身なやさしい医療を目指しています。

これからも患者さんのお話をよく聞きながら、スタッフ一同、心をひとつに地域に根ざした町医者であり続けたいと思います。

今後ともよろしくお願ひいたします。



横田先生(前列中央)とスタッフの皆様

所在地 〒395-0157 飯田市大瀬木993-1

☎0265-28-1655

診療科目 内科・消化器科

診療時間 9:00~12:00 / 15:30~18:00

休診日 水曜日午後 土曜日午後 日曜日 祝日

往診 可

駐車場 有



地域と連携~ゆうゆうで大規模な消防演習を実施



地域と連携した救助

去る11月10日、ゆうゆうで新施設完成後初めてとなる大規模な消防演習が行われました。

当日は朝から雨が降るあいにくの天気ではありましたが、施設職員をはじめ、飯田広域消防本部、飯田消防署、消防団等の消防関係者、上郷地区まちづくり委員会及び下黒田南まちづくり委員会、日赤奉仕団等地元上郷地区住民の皆さんなど合せて約150人が参加しました。夜間に施設内から出火したとの想定で、職員が発見・通報し、

登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

5回シリーズ ー第4回ー

スムーズな受診は「かかりつけ医」と上手に付き合うことから始まります



飯田市立病院「婦人科外来」に受診するには、紹介状による事前予約が必要です！

飯田市立病院は、地域の医療機関と密接な連携で結ばれています。これからは、地域内の各医療機関の持つ機能に基づいた、役割分担による「地域完結型医療」を地域の皆さんとともに進めていきたいと考えています。特に「かかりつけ医」との医療連携を大切にしております。先ずはお近くの診療所等を「かかりつけ医」としていただき、そこから受診を始めることを実践してみましょう。

今回は、飯田市立病院「婦人科外来」への受診方法についてご案内します。

◆飯田市立病院婦人科への受診をお考えの皆様へのお願い

全国の医療機関と同様に、当地域の産婦人科の情勢は依然として厳しいものがございます。受診に際しましては、以下の点について皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

①初診

原則として婦人科の初診は紹介状が必要となります。当院以外の医療機関で受診され、当院での診察が必要な方は、地域総合医療連携室で予約をお取りになってから、紹介状を持参して当院にお越しください。

②完全予約制

現在、婦人科は「完全予約制」とさせて頂いておりますのでご了承ください。予約されている方でもかなりの待ち時間を要しております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

予約は平日の14:00～16:00に電話でお願いします。

③その他

当院婦人科通院中の方でも予約をされていないと、予約受診の最後までお待ちいただくか、改めて予約し再来院していただくこともありますのでご了承ください(緊急の場合は別です)。

市立病院を受診されている患者さんで、良性疾患の定期検診などは、ご本人のご了解をいただいた上で市立病院以外の医療機関に紹介させていただくこともあります。

なお、現在当院では、不妊治療を行っておりません。

飯田下伊那地域 産婦人科医療機関

医療機関名	電話番号	住所
飯田市立病院 産婦人科 (0265)21-1255	産婦人科全般について 産婦人科外来 紹介状をお持ちの方 地域医療総合連携室 →内線2015 →内線2213・2214	飯田市八幡町438
椎名レディースクリニック	(0265)22-0304 (0265)22-1008 (予約専用)	飯田市小伝馬町1-52
羽場医院	(0265)28-5151	飯田市駄科536-3
西澤病院	(0265)24-3800	飯田市本町4-5
平岩ウィメンズクリニック	(0265)27-2067	飯田市川路4938
下伊那赤十字病院	(0265)36-2255	松川町元大島3159-1

同時に避難誘導を開始。消防隊員が到着してから本部を設置し、本部からの指示でエアーストレッチャー等の避難器具やはしご車を使用し、2、3階から入所者の救助にあたりました。また、今回初めて地域との連携による救助も取り入れ、職員と地域住民の皆さんとが一緒になって、入所者を車いすで施設から救護所まで搬送する訓練も行いました。演習を終えて、多くの参加者から「大変有意義なもので、貴重な経験を今後に生かしたい」との声がありました。今後有事の際に迅速な対応をするためには地域との協力が重要であり、さらに連携を深めて参ります。



はしご車による救助

認定看護師の紹介

その2

認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師のことです。患者さんの療養生活の向上と疾病を抱えながらも在宅でその人らしい生活が送れるために、専門的知識をもつ認定看護師を中心とし、フットケア、ストーマ管理、褥瘡予防、リンパ浮腫ケア、緩和ケア等を行っています。当院の認定看護師を紹介します。

皮膚排泄ケア認定看護師

ストーマ（人工肛門・人工膀胱）を持った患者さんが適切な管理を行えるよう援助を行ったり、褥瘡（床ずれ）を持つ患者さんの早期治癒と予防に向けた関わりを行っています。また、皮膚にトラブルを生じやすい患者さんへの予防的援助も行っています。最近では、訪問看護師と共に、褥瘡を保有する在宅療養者のご自宅に伺い、ケアの助言を行ったり、地域で褥瘡ケアに携わるスタッフへの教育等も行っています。



糖尿病看護認定看護師

内科外来の1室で、神経障害のある糖尿病患者さんのフットケアを行っています。

その他に、糖尿病患者さんが療養上困難と感じている内容の相談に応じたり、インスリン注射方法の確認、透析予防の説明をしています。

また、地域の医療者や住民の方に対して、糖尿病のお話をします。



がん性疼痛看護認定看護師

がんの痛みを抱える方の苦痛を緩和するために、痛みの治療（鎮痛剤の使い方や副作用対策など）や、それに伴う不安の相談やアドバイスを行っています。また、がんの治療に関わる面談と一緒に同席し、悩みや不安をお聞きしています。



お知らせ

ウイルス性胃腸炎・インフルエンザに共通する感染予防

冬季はウイルス性胃腸炎の代表であるノロウイルスや突然の高熱や関節痛、呼吸器急性炎症症状が見られるインフルエンザなどの感染症が流行する季節です。

これら感染症は、ウイルスや細菌などの微生物がからだの中に入り込むことで発症します。微生物がついている環境に触れた手で目を擦る、またはその手で食べ物を掴み口の中に運ぶことで感染するのです。このように手が環境から汚染し、そしてからだの中へ微生物を運んでしまうのです。



それでは感染「しない」「させない」ためには何をすることが大切なのでしょうか。それは手指衛生（手洗い）です。手洗いは感染対策における基本であり最も簡便な方法なのです。手洗いをするすることで手に着いた微生物を洗い流し、からだの中へ入り込む事を防ぐのです。

食事の前やトイレのあと、外出から戻ったら手を洗いましょう。

また、手洗いは30秒間の時間をかけ、指先、指の間、手首ときちんと洗うことが大切です。

医療安全部 感染管理室 感染管理認定看護師 桜井一彰



外来の椅子を整備しました

この度、中央受付及び外来等の待合ソファー145席のシートを一斉に張り替えました。

シートの張替えによりソファの状況が改善されただけでなく、外来エリアは黄色で明るくし、中央受付エリアはミント色で爽やかに、ドック室はグレーでリラックスできる雰囲気になりました。

院内も明るく清潔感がある空間となり、来院者の皆さんに今まで以上に快適に使用していただけるようになりました。また、買い替えでなく修繕をしたため、費用も抑えることができ、環境にも配慮することができました。



中央受付



人間ドック室



外来待合



小児科前



情報カプセル

PMDA(医薬品医療機器総合機構)って知っていますか？

薬を正しく使うために、必ず正しい情報が必要となります。どんなに良い薬であっても、その薬を使用するための正しい情報があつてこそ、はじめて薬として成り立つものです。

今回より薬剤科がこのコーナーを担当することとなりました。

病院内では医薬品情報誌『情報カプセル』として情報を発信していますが、このコーナーも情報カプセルの名称で進めて行きたいと思ひます。

平成16年4月1日に設立された医薬品医療機器総合機構 (PMDA) は、医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して迅速な救済を図り (健康被害救済)、医薬品や医療機器などの品質、有効性および安全性について、治験前から承認までを一貫した体制で指導・審査し (承認審査)、市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う (安全対策) ことを通じて、国民保健の向上に貢献することを目的としています。このPMDAのホームページを使って、自分が使用している薬のことを詳しく調べることができます。

PMDAのホームページを是非活用して下さい。 <http://www.pmda.go.jp>

シリーズ ● 職場紹介 ● その39

【薬剤科の紹介】 その① (注射管理室)

地下1階にある注射管理室は、薬剤師9名、事務職員2名により構成されています。入院患者さんの注射薬の個別セットや、高カロリー輸液、また抗癌剤の無菌調製などを行っています。注射薬を取り扱う際には、投与量や投与経路、投与速度、配合変化等について適正であるか確認し、安全で最適な薬剤の提供に力を入れています。また、様々な治療に対応するための特殊薬剤の調製や、患者さんの薬物血中

濃度を測定し、薬物動態学的な解析をもとにした、最適な薬用量・投与法の検討などを行っています。3月末には新しい外来化学療法室も稼働予定であり、今後もより安心・安全な薬物療法の支援

ができるよう、一同努力していきたいと思ひます。



あ と が き

先日、松本から帰ってきた日、日中でも「-5℃」の諏訪、飯島・駒ヶ根の田畑や家の屋根に積もった雪を観て、飯田の気温「1℃」を見た時「飯田はいいな～」と思ひました。飯田の気温の様に“のほほ～ん”と一年が過ぎないように、「驥驥も一躍に十歩すること能わず」(ききもいちやくにじゅうほすることあたわず) 一歩一歩大切に前進できる1年にしたいものです。 編集委員 笠原真弓